

- 町民の高齢化、耕作放棄地や空き家の増加によりイノシシ被害が拡大し、従来の猟友会主体による捕獲体制に限界。
- 猟友会主体の「本隊」と農家主体の「わな部隊」による鳥獣被害対策実施隊を編制し、捕獲活動を強化。
- 農家には自らの農地を自衛してもらうこととし、狩猟免許取得経費を町が全額助成。

### 大子町の課題

- 従来、猟友会主体の捕獲隊（40名規模）で有害鳥獣の捕獲を実施してきたが、
  - ・ 町民の高齢化（H27:40%）※全国：26.7%
  - ・ 空き家の増加
 等によりイノシシ被害が拡大し、捕獲隊だけでは対応できなくなるおそれ。
- イノシシによる被害額の推移（水稻）  
（単位：千円）

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
1,620	6,849	3,567	6,380	3,480

### 町の対応

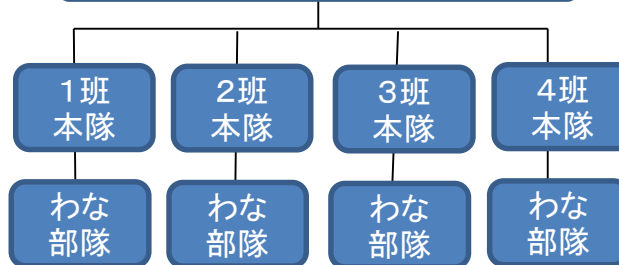
- 農家には自らの農地を有害鳥獣から自衛してもらうこととし、町は狩猟免許取得経費（18,200円）を全額助成。
- 狩猟免許取得費用負担の助成制度を活用し、27年度に95名がわな免許を取得。

### 県の協力

- 狩猟免許取得者が増えたことから、大子町において、免許更新の講習や研修を実施。

### 「わな部隊」の設置

#### 大子町鳥獣被害対策実施隊



【本隊4班40名、わな部隊100名】

- わな免許取得者に箱わな、くくりわなを貸与（箱わな249基、くくりわな375基）  
（平成30年4月）。



- 町の支援を受け、地域住民が協力し、囲いわなを設置。



### 「わな部隊」設置の効果

- わな部隊設置前のイノシシ捕獲頭数

	24年度	25年度	26年度
捕獲頭数	266	399	650



- わな部隊設置後のイノシシ捕獲頭数

	27年度	28年度	29年度
くくりわな	697	896	694
箱わな	295	579	512
銃器	100	49	87
囲いわな	30	1	10
計	<b>1,122</b>	<b>1,525</b>	<b>1,303</b>

- 捕獲頭数は26年度の650頭から、わな部隊設置初年度の27年度は1,122頭と倍増。以降も、従前の捕獲頭数を大きく上回る水準で推移。
- 本隊（猟友会員）は、わな部隊のわなの見回り・指導のほか止め刺しにも協力。わな部隊メンバーの7割が猟友会にも加入し、狩猟期にも活動するなど、両者が一体となって取組を実施。

イノシシ被害を減らすために、担い手を確保し、効果的に機能する体制を構築できればなあ・・・



大子町

きっかけ

- 猟友会員を含む町民の高齢化
- 空家、耕作放棄地の増加、緩衝帯消失等によるイノシシ被害拡大



猟友会主体の捕獲隊  
(40名規模で有害捕獲)

- 捕獲隊だけでは手が回らず、担い手確保が急務

Step 0 (～H26)

地域の農業者

- 被害を受けている農家自らが対策を実施することへの強い要望の声

Step 1 (H27)

わな猟免許取得に係る費用補助の周知(大子町)

- 新規免許取得町民に対し、費用の全額を助成
- 町では、本制度利用者を20名程度と想定

Step 2 (H27)

わな猟免許取得補助の反響

予想をはるかに上回る  
**95名の希望者**

- 町は、被害の深刻さと対策参加希望の強さを実感

取組に当たっての秘訣・ポイント

- 1町1猟友会の本町では、本隊を担う猟友会との調整が円滑に進行
- 猟友会〔本隊〕と農業者〔わな部隊〕に対して相互の意見を調整しつつ同じ目的意識の共有を図ること
- 両者の役割分担を明確にすること
- 研修会の開催等により、捕獲活動参加への農業者の意識を醸成すること

将来に向けての課題・展望

- イノシシは学習能力が高いため、箱わなの捕獲率低減が懸念  
⇒ ICTを活用した捕獲の効率化、「わな部隊」の技術向上のための研修
- 本隊〔猟友会〕の担い手確保  
⇒ 猟友会員〔若年層〕への銃猟免許取得推進

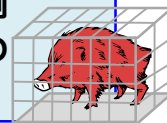
イノシシ捕獲頭数(大子町)

H26 : 650頭 ⇒ H27 : 1,122頭  
(H28:1,525頭、H29:1,303頭)

Step 4 (H28～)

わな部隊設置後の活動

- わな部隊向けの研修会を開催  
〔「わな部隊」が果たす役割を再認識〕
- 町が箱わな等の管理状況チェック
- 猟友会への加入促進  
⇒ 「わな部隊」構成員の7割が猟友会に加入。狩猟期の活動促進に寄与



Step 3 (H27)

大子町鳥獣被害対策実施隊

大子町鳥獣被害対策実施隊



- 本隊〔猟友会〕と「わな部隊」〔農業者〕を配置し、従来の捕獲体制と農地自衛の両輪で活動〔4班編制〕
- 農業者がわなを設置、猟友会が管理指導と止め刺しを行うという分担
- 町は「わな部隊」へ箱わなを貸与

取組を経て…